

令和2年度 西東京市公民館 事業評価表

※ 評価欄 A～D

資料5

【目的】西東京市公民館事業評価は、公民館が持つ機能の充実を目指し、事業の改善を図ることを目的とする。

- A ..十分達成している
- B ..概ね達成している
- C ..今後の努力が必要
- D ..達成できていない

令和2年度 西東京市公民館 事業方針

<p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西東京市公民館は、生活課題や地域課題を見据え、地域づくりにつながる視点を持って幅広く学習機会を提供し、課題解決に取り組む住民の主体的な学びを支援する事業を実施していきます。 ・人と人とのつながりを大切に地域社会を創造していくために、住民が学び、活動、交流する場として、6館の公民館が十分に機能するように運営していきます。 ・だれもが学び集うことができるように、障がい者や外国人などの社会的に制約を受けやすい人に配慮します。 	<p>【重点的取り組む事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学びを通じた地域づくりに取り組む事業を実施します。 ■ 多世代が参加し、交流する事業を実施します。 ■ 子育て世代の学びを支援する事業を実施します。 ■ 異なる文化背景をもつ市民の地域社会への参画を支援する事業を実施します。 	<ol style="list-style-type: none"> ①「西東京市公民館の事業評価のあり方について」に対する答申(平成23年4月27日)に基づき、公民館事業全体の総合的な評価を行う。 ②数値のみでは表せない視点を盛り込んだ実績も積極的に評価に取り入れる。 ③評価内容は柔軟な評価を目標にして、定期的に見直しを行う。(見直しは検討会議を開催する) ④事業評価の内容を公開する。 ⑤評価結果は今後の公民館事業計画及び運営に反映させる。 ⑥持続可能な社会づくりの観点で評価する。 ⑦市民本位の公民館経営における事業展開を適切に評価する。
---	---	--

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績 令和2年度	公民館(1次)評価 令和2年度		公民館運営審議会(2次)評価 令和2年度	
					評価	評価及び課題 [◇..評価 ◆..課題]	評価	評価及び課題 [◇..評価 ◆..課題]
個別事業		<p>【地域課題学習の提供・学習ニーズの反映】</p> <p>地域や市民の実態、学習ニーズを反映した事業の実施に努めたか 市民が参加しやすい工夫を凝らしたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の取り上げ ・現代的課題の取り上げ ・新たな利用者の開拓 ・教育計画の反映 	<p>* 全事業数 63件</p> <p>①地域課題の取り上げ 20件(31.7%) (環境、防災、多文化共生、不登校、子どもの権利など)</p> <p>②現代的課題の取り上げ 2件(3.2%) ※①と②については重複なし。計34.9%</p> <p>③新たな利用者の開拓 37件(58.7%) 公民館主催事業に初めて参加した人が5割を超える事業 17件(30%) ※主に、子ども・親子対象事業、保育付き講座、趣味講座</p> <p>④第2次総合計画後期基本計画の反映 24件(38.1%)</p> <p>⑤教育計画の反映 30件(47.6%) ※①～⑤については重複あり <市民が参加しやすい工夫> 事業対象者が参加しやすい日程で企画 例) 父親を対象とした事業については土日に実施し、講師についても父親が参加しやすい人選を行った。</p>	A	<p>◇①継続事業を中心に、防災や環境、多文化共生など、地域課題や現代的課題を取り上げた連続講座を積極的に実施した。②親子対象事業や保育付き講座、趣味講座など、公民館利用者層を広げることを課題とした事業に取り組んだところ、初めて公民館事業に参加した人が参加者の5割を超える事業が全体の3割を占め、新たな利用者層の開拓につながった。③事業の企画にあたっては、対象とする層が参加しやすい日程や講師を選ぶ等の工夫を行った。④全事業の5割弱が教育計画を反映した事業となっている。</p> <p>◆地域課題や市民の学習ニーズを反映した計画的な事業実施を行うために、令和2年度に上位計画と関連計画をふまえた令和3年度～5年度公民館事業計画を策定した。今後は、これに基づいて、全館で連携して、計画的な事業実施に努める。</p>	A	<p>◇①前年度と比較し、事業数については約3分の2に変わったにも関わらず(94件→63件)、地域課題の取り上げは20件(前年度より2件増加)であり、全事業に占める割合は31.7%であった。コロナ禍においても、地域課題学習に取り組む姿勢は評価できる。②接触型の交流事業がコロナ禍で実施できないにも関わらず、利用者層を広げることができ、また教育計画の反映も適切にできている。</p> <p>◆今後も起こることが想定されるパンデミックに備え、今回開催したオンラインについて学ぶ講座など、ネット社会のリテラシーに取り組む講座が充実していくことを望む。学校でのタブレットの導入が進む今、子どもから大人までの学習課題を取り上げる講座も提案したい。</p>
		<p>【学習者の視点】</p> <p>学習者の視点に立った、適切な事業実施ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによるプログラム・講師・運営に対する学習者の満足度 	<p>学習者の声 (A:満足 B:ほぼ満足 C:やや不満 D:不満)</p> <p>プログラムの満足度/AとBが合わせて 99.1%</p> <p>講師の満足度/AとBが合わせて 99.2%</p> <p>運営の満足度/AとBが合わせて 99%</p>	A	<p>◇受講者へのアンケート結果や感想から、事業・講座に対する受講者の満足度は高いと判断できる。</p> <p>◆令和3年度～5年度公民館事業計画の策定に伴い、令和3年度に公民館事業評価表の見直しを行う。その際に、学習者の視点に立った適切な事業実施について、受講者の満足度調査に加えて、何を指標とすべきか、検討する。</p>	A	<p>◇アンケートはすべての事業で行われ丁寧に学習者の声を拾い上げている。実施された講座への満足度が高いことがわかり、評価できる。</p> <p>◆①満足度が高いことは評価できる。しかし高すぎた場合、改善に向けての課題を明確化することが困難になるという側面がある。②小さなことでも改善につながる意見を拾うため、アンケート項目、問いかけ方の見直しを検討してもよいのではないかと。特に子ども向け事業では、率直な感想を引き出す工夫が必要と考える。③回収率との兼ね合いでの満足度がわかるとなるとよい。④参加者以外の学習者の声も拾えるとなるとよい。</p>
		<p>【プロセス重視の運営】</p> <p>プロセス重視の事業企画・運営に努めたか 市民の主体性を尊重し、自治能力の向上につながる学習の支援ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備会 ・実行委員会 ・参加型の学習(グループワーク、ワークショップ等)の工夫 ・相互学習 ・学習成果の発表 	<p>* 全事業数 63件</p> <p>・準備会 9件(14.3%)</p> <p>・実行委員会 1件(1.6%)</p> <p>・参加型学習(グループワーク、ワークショップ等)を取り入れた講座の実施数 22件(34.9%)</p> <p>・体験、実技、創作等にかかる講座実施数 18件(28.6%)</p> <p>・相互学習 3件(4.8%)</p> <p>・学習成果の発表 7件(11.1%)</p> <p style="text-align: right;">※重複あり</p>	A	<p>◇①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実行委員会方式で行う公民館まつり等の地域交流事業はほとんど実施できなかったが、継続事業については準備会を開催し、企画段階からの市民参加を進めた。</p> <p>②3割強の講座では、グループワークやワークショップ等の参加型学習や相互学習を取り入れた。そのほかに、体験型学習の事業も実施しており、市民主体の学習とプロセス重視の事業企画・運営に意識的に取り組んだ。</p> <p>◆①令和2年度は、市民の学習の成果を発表する機会である公民館まつり等の地域交流事業の大半を中止せざるを得なかったが、令和3年度はコロナ禍に対応した方法での実施を検討する。②新たな市民の参加を得られるような準備会と実行委員会のあり方を検討する。③市民の自治能力の向上の支援につながるような、講座の企画・運営方法について検討する。</p>	A	<p>◇コロナ禍においても、準備会を開催した事業が9件あった。学習者主体の社会教育活動にとって、企画段階での学習者の参画は重要なことと評価する。</p> <p>◆コロナ禍ではせっかく準備していても急に実施不可になることも多いため、可能なものはオンライン対応するなど、いろいろな選択肢、代替策を準備して柔軟な対応ができるようにしてほしい。</p>

<p>【協働・連携、協力の視点】 協働や連携の視点で事業を企画・実施することができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他課との協働・連携、協力 他教育施設との協働・連携、協力 他公共機関との協働・連携、協力 地域NPO等との協働・連携、協力 市民サークルとの協働・連携、協力 地域の人材との協働・連携、協力 	<p>* 全事業数 63件 ・協働・連携 7件(11.1%) 市民団体等 7件 地域人材 3件 他課等 1件 ※重複あり</p> <p>・協力 23件(36.5%) 市民団体等 16件 地域人材 7件 他課等 10件 ※重複あり</p>	<p>◇今までの市民団体等との協働・連携は、主に公民館まつり等の地域交流事業を中心に行っていたが、令和2年度は地域交流事業以外に4事業で行った。また、全体の3割を超える事業が市民団体、地域人材、他課の協力を得て行われており、協力、協働・連携の視点を以ての事業の企画・実施が定着したと考えられる。</p> <p>A ◆①市民、市民団体、関係機関との協働・連携による事業の実施は、令和3年度～5年度公民館事業計画の基本方針の一つであるので、さらに進めていく。②学校との連携・協働については、教育指導課、社会教育課、図書館と連携し、令和3年度から学校出前講座を実施し、学校との関係形成を図りながら進めていくこととする。</p>	<p>◇令和2年度から今後の公民館事業計画を意識し、自覚をもって講座運営がなされているのは素晴らしい。</p> <p>A ◆今年度、学校出前講座が予定されており、子ども達の反応が楽しみである。学校との関係を丁寧に作り、長く継続できる事業への足がかりとしてほしい。</p>
<p>【だれもが学べる学習機会の提供】 社会的に制約を受けやすい人への配慮も含め、幅広い対象に向けて、学習の機会を提供することができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 青少年対象・親子対象・高齢者対象・子育て中の女性対象・高齢者対象・障がい者対象・外国人対象などへ向けた事業実施 学習支援保育事業(※1)の実施 	<p>一般対象 8件／青少年対象 10件(小学生 6件、中学生 4件、15歳～18歳未満 2件、18歳～40歳未満 0件)／親子対象 5件／成人対象 35件／高齢者対象 2件／子育て中の女性対象(学習支援保育) 6件／子育て中の女性対象 0件／子育て中の保護者対象(学習支援保育)0件／子育て中の保護者対象 3件／男性対象 0件／女性対象(学習支援保育) 0件／女性対象 0件／勤労者対象 0件／障がい者対象 4件／外国人対象(学習支援保育) 1件／外国人対象 0件／多世代交流 2件／その他 0件／学習支援保育付き事業 6件</p> <p style="text-align: right;">※重複あり</p>	<p>◇①新型コロナウイルス感染対策のため、多世代交流等、市民の交流を主目的とした事業は実施できなかったが、子ども体験講座や学齢期の子どもをもつ保護者対象の講座、認知症予防講座など、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、ライフステージに応じた課題を取り上げた事業を実施した。②感染拡大防止のため、障がいの有無を問わずともに参加し交流する事業は実施できなかったが、障がい者や外国人ルーツをもつ市民等、社会的に制約を受けやすい人を対象とした継続事業は、コロナ禍に対応した方法で行った。</p> <p>A ◆土日に実施する事業には青年や勤労者の参加が見られるが、さらに、参加しやすい日時や固有の課題について検討を重ね、青年や勤労者対象の事業を充実させる。</p>	<p>◇対象者の特性に配慮すれば、実施できなかった事業があったことは理解できる。その状況下でもコロナ禍に対応した方法で継続事業を実施した点が評価できる。</p> <p>A ◆実績の表記の仕方についてさらにわかりやすくなるよう工夫がほしい。</p>
<p>【学びの課題】 多様な地域課題や社会的課題に対して、解決に向けた学習の機会を提供することができたか</p>	<p>子育てに関する事業、環境に関する事業、人権、平和に関する事業、男女平等参画、生きがい、仲間づくりに関する事業等の実施</p>	<p>* 全事業数 63件 子育て 10件／家庭教育 2件／食育 1件／健康 3件／男女平等参画 0件／女性の生き方 0件／高齢者問題 1件／高齢社会 3件／防災 6件／障がい者 3件／労働 0件／貧困問題 0件／人権 2件／平和 2件／環境 1件／国際理解 0件／多文化共生 2件／まちづくり 6件／メディアリテラシー 2件／仲間づくり 15件／生きがいづくり 4件／その他 11件(日本語学習、郷土史、歴史、公民館、農業、日本文化、防犯、不登校、オンライン)</p> <p>※重複あり</p>	<p>◇昨年度に引き続き、継続的に取り組んでいる地域課題や現代的課題を中心に多様な課題を取り上げた事業を積極的に実施したが、男女平等参画や労働など、取り組めていない課題もある。</p> <p>B ◆①令和3年度～5年度公民館事業計画をふまえ、全館で連携して、多様な課題に計画的に取り組んでいく。②令和3年度は、対象を限定しない保育付き講座に取り組む。</p>	<p>◇どの課題も積極的に取り組んでいきたい内容である。現状の分析から今後の方針まで見通しを立てた評価ができています。</p> <p>B ◆①コロナ禍において進む貧困、とりわけ顕在化した女性の貧困や性暴力被害などを踏まえ、ジェンダーの視点に立った事業の実施を望む。②対象を限定しない保育付き講座の工夫と、引き続き保育内容への配慮も望む。</p>

		重点的な取り組み	重点的な取り組みに取り組んだか	<ul style="list-style-type: none"> ■学びを通じた地域づくりに取り組む事業を実施します。 ■多世代が参加し、交流する事業を実施します。 ■子育て世代の学びを支援する事業を実施します。 ■異なる文化背景をもつ市民の地域社会への参画を支援する事業を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを通じた地域づくりに取り組む事業 14件 ・多世代が参加し、交流する事業 4件 ・子育て世代の学びを支援する事業 11件 ・異なる文化背景をもつ市民の地域社会への参画を支援する事業 2件 	<p>A</p> <p>◇①新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、交流を伴う「多世代が参加し交流する事業」と「異なる文化背景をもつ市民の地域社会への参画を支援する事業」については、実施できる事業に限られた。②学びを通じた地域づくりに取り組む事業については、共生社会や防災、環境、まちづくりなど、地域課題を取り上げた事業に取り組んだ。③子育て世代の学びを支援する事業については、育児期の女性を対象とした事業だけでなく、学齢期の子どもがいる保護者対象の事業にも取り組んだ。</p> <p>◆コロナ禍で制約があるが、地域の大人と子どもの交流を課題とした、多世代が参加し交流する事業に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>◇新型コロナ感染防止対策として中止や形態変更しての実施となった事業がある中で、実績指標をすべて網羅できたことは評価できる。</p> <p>◆交流しづらい世の中で難しいことも多いが、オンラインの活用など、工夫しながら取り組んでほしい。また6館で偏りなく事業が実施されるよう今後も取り組んでほしい。</p>
--	--	----------	-----------------	---	---	---	---

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績 令和2年度	公民館(1次)評価 令和2年度		公民館運営審議会(2次)評価 令和元年度	
					評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]	評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]
(2)	施設管理	環境整備	<p>【学習環境としての整備】</p> <p>市民の学習権を保障する施設として、エコの観点に配慮しつつ、利用者が快適に使える環境整備を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団体連絡箱利用団体数(6館合計) 421団体 * 団体連絡箱の総数(6館合計) 486 ・印刷機利用件数(6館合計) 809件 ・新型コロナウイルス感染対策 <ul style="list-style-type: none"> ・網戸を必要数、設置(田無は改修工事前のため、保谷駅前建物は5階のため設置せず) ・日常清掃における高頻度接触部位の消毒 ・手指消毒剤の設置 ・備品消毒剤の提供 ・利用区分を3区分から4区分に変更 	A	<p>◇①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館した期間も、利用時間帯を制限しつつも団体連絡箱と印刷機は利用できるようにし、団体活動を支援した。②新型コロナウイルス感染対策として、ロビーについては、感染対策のために利用できるイスの数を減らし、テーブルを撤去したが、市民が一人でも利用できる居場所としての機能は維持した。③感染対策として、換気のための網戸の設置、清掃作業中での高頻度接触部位の消毒、手指消毒剤の設置、備品消毒剤の提供など、感染予防に留意した環境整備に努めた。④令和3年度の田無公民館の耐震補強等改修工事に伴う休館に備え、令和3年2月に利用区分を3区分から4区分に変更した。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染防止に留意しながら、ロビー等の施設の環境整備に努める。</p>	A	<p>◇コロナ禍においても、感染対策を徹底し可能な限り利用できる環境を整備したことは評価できる。特に臨時休館中も印刷機と団体連絡箱の利用を可能にしたことで、活動の継続に寄与し、緊急事態宣言下でも施設使用を可能にしたことで、市民活動の継続を保障した。</p> <p>◆感染予防に努めつつ、慎重かつ適切に環境整備されることを望む。</p>
		防災	<p>【防災】</p> <p>地域防災力の向上と防災を意識した施設管理に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施 ・防災対応マニュアル ・防災備品の管理 ・帰宅困難者一時滞在施設としての整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施 5件 ・防災対応マニュアルの整備 ・防災備品の管理 	A	<p>◇コロナ禍のため職員のための訓練となったが、5館で防災訓練を行った。</p> <p>◆新型コロナウイルスの感染状況に応じて、適切な方法で防災訓練を実施する。</p>	A

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館運営審議会(2次)評価			
					評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]		
(3)	窓口業務	<p>【学習情報整理】</p> <p>学習情報の収集・整理・共有化を行い、市民の学習に繋がるような情報提供を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団体一覧の更新(年1回) ・各団体の館内掲示物の整理や保管 ・チラシ、会員募集等の随時整理 <p>※団体の登録の更新(5年に1回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の定期的な活動情報の更新(年1回) ・サークル紹介冊子の作成・配布(谷戸) ・サークル紹介用ファイル設置等(柳沢・田無・芝久保・谷戸) ・市ホームページを活用した情報提供を拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ上に主催講座一覧のページを設けて毎月更新 ・公民館だより市ホームページ主催講座一覧のページのQRコードを掲載 ・市ツイッターと市ホームページの自動連携の実施 ・市ホームページ上に講座の動画を公開 ・令和3年度の田無公民館耐震補強等改修工事に関して下記を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者懇談会 3回実施 ・個別相談会 12団体参加 ・休館中の活動場所についての説明会 3回実施 	A	<p>◇①団体一覧やサークル紹介紙、ポスターの掲示、チラシの配架等により、団体及び学習情報の整理、提供を行った。②市ホームページを活用した学習情報の提供の充実に取り組んだ。③令和3年度に耐震補強等改修工事のため休館する田無公民館は、利用団体に対し休館中の活動場所に関する情報提供を行うとともに、相談会を開催し、個別に団体の相談に応じた。</p> <p>◆6館で活動する団体の情報について、分野ごとにまとめた紹介ファイルの作成等について検討する。</p>	A	<p>◇①ポスター、チラシの配架等はとても見やすく整理され、公民館関連のみならず幅広い情報を得ることができている。②ホームページの活用も以前より充実している。③田無公民館の休館に伴う相談が行われたこと、「おたより」の発行など、公民館らしい取り組みがあったことは評価できる。</p> <p>◆①活動団体情報がインターネットで見られるとよい。②サークル紹介用のファイルは全館で作成されることを望む。③コロナ禍での休館中も活動の相談に応じていることを広く周知してほしい。</p>

		<p>【窓口対応における学習支援】 市民の学習の質を高め、継続的なものにすることができるよう学習相談を実施する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館登録団体に関する情報提供 ・団体からの各種相談に対する対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・書面による公民館登録団体の紹介 128件 ・令和3年度の田無公民館耐震補強等改修工事に関して下記を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者懇談会 3回実施 ・個別相談会 12団体参加 ・休館中の活動場所についての説明会 3回実施 	<p>A ◇①窓口及び電話で、市民の求めに応じて、サークル紹介冊子も活用しながら、団体情報の提供を中心とした学習相談を行った。②主催講座から発足した自主グループ等の相談にも応じ、支援した。③令和3年度に耐震補強等改修工事のため休館する田無公民館は、休館中の活動等について、団体からの個別の相談に応じた。</p> <p>A ◆コロナ禍において、活動の自粛や会員の退会、部屋の利用可能人数の制限に伴い会場確保が困難になったこと等により、活動が停滞している団体や存続の危機にある団体もある。団体活動の継続を支援する取り組みや、団体が相談しやすい関係づくりが課題である。</p>	<p>A ◇コロナ禍での窓口業務はこれまでと違った役割を担ったと推測されるが、休館中の対応も親切で気配りがされていた。市民の相談にも適切に対応できている。田無公民館休館に向けての対応も丁寧だった。</p> <p>A ◆①市民からの学習相談や団体・自主グループからの相談の内容は公民館への期待を表す側面も持つので、貴重な資料として生かせるとよい。②活動自粛により休止している団体への継続支援をどこまで行うかは課題だといえる。</p>
--	--	--	--	--	---	---

項目	評価区分	評価内容	実績指標	公民館(1次)評価 令和2年度		公民館運営審議会(2次)評価 令和元年度	
				評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]	評価	評価及び課題 [◇…評価 ◆…課題]
長期的視点での人づくり	学習成果	【学習の継続と成果】 事業参加者の学習活動の総括・学習成果の発表・学習の継続を支援する	・記録誌、記念誌の発行 ・主催講座からサークル化した団体数	A	◇①孤立しがちな育児期の女性を対象とした保育付き講座では、仲間づくりを課題とし、講座終了後も話し合いの場を提供し、自主サークル化の支援を行った。 ②講座終了後、参加者が一緒に学びを振り返る会を実施した事業は5講座。内1講座からは自主サークルが発足。次年度の準備会へと発展した会もある。③コロナ禍への対応として、3事業が市ホームページ上で動画を公開。講演録を市ホームページ上で公開した事業もあり、市ホームページの活用が進んだ。 ◆引き続き、自主サークル化と記録誌の作成に加え、振り返りの会など、さまざまな方法で、参加者自身による学習活動の総括に取り組む。	A	◇①主催事業において、事業後の振り返りの回を実施、サークル化、記録誌の作成・公表等々、5~10件に及んでいる。近年、一般には事業後の展開が難しくなっている中で、このような実績を継続している点は、事業の質が表れている点、事業後の対応へ意識的に取り組んでいる点と共に評価できる。②コロナ禍で、工夫を凝らし保育付き講座を行ったことは評価できる。 ◆①記録誌発行は学びを振り返り学習者相互の学びを共有化するものであるが、形骸化していないか再度目的を明確にし共有することが求められる。冊子とは違う形での記録も検討されたい。②保育付き講座の自主サークル化について、近年、働く女性が増え、職場復帰する人も多いので活動が継続できる工夫が必要。また、コロナ禍でさらに行き場のない母親に学習の機会を提供した実績を、今後の保育付き講座に生かしていただきたい。③全般に、講座終了後に参加者がさらに学習したい、人に出会いたいと感じる講座を組んでほしい。
	学習経成年果	【学びの還元】 公民館で長期的な活動を行う市民・団体を地域資源としてとらえ、その力を公民館事業に活かすとともに、学習成果の地域還元を支援する	・地域交流事業への参加支援 ・フェスティバル及びまつりの実施 ・公民館ロビーでの展示、発表 ・記録誌の活用 ・市民企画事業の実施(※2)	A	◇①新型コロナウイルス感染拡大及び感染拡大防止のため、当初予定した公民館まつり等の地域交流事業の大半を中止せざるを得なかった。そのような中、年度末の3月に開催予定であった人形劇フェスタin西東京とひばりが丘フェスティバルは、事前申込制や動画上映という方法をとり、感染対策を講じた上で、実施した。②ロビー展示については、市の公共施設の利用基準に適した方法で実施できる館は限られ、ほとんどが柳沢を会場として行われた。③市民企画事業については、臨時休館した期間があったため、4期のうち、後半の第3、4期のみ募集した。 ◆令和3年度については、団体の活動を支援するためにも、コロナ禍に対応した方法での、公民館まつり等の地域交流事業の実施に取り組む。	A	◇コロナ禍での難しい状況の中、実績指標とされている事業を、実行委員会によるイベントの実施、市民企画事業の10件もの実施等、一定程度継続・実施したことは評価できる。②開催できたかどうか以上にそこに至るプロセスこそ大きな経験となり、今後生かされる取り組みといえる。 ◆①コロナ禍で何ができて何ができなかったかを記録に残しておく必要もあると思う。②今後も続くであろうコロナ禍で、どのような形の「交流」を実現できるのか新たな取り組みが試されることになる。
	地域づくり	【市民参加】 市民本位の公民館運営の実現のために、館の運営及び事業の企画・運営への市民参加を促進する	・公民館運営審議会の開催(月1回) ・事業実施のための準備会開催 ・実行委員会方式による事業の実施 ・利用者懇談会の開催	・公民館運営審議会の開催 10回 ・事業実施のための準備会 9件 ・実行委員会方式による事業の実施 1件 ・全館で利用者懇談会を開催 ・対象者別利用者懇談会の開催(陶芸・柳沢・芝久保、第4学習室:保谷駅前) ・利用区分変更について ・利用団体にアンケートを実施…414団体から回答 ・定期利用者懇談会でアンケート結果に基づき説明…計11回開催 ・変更実施前に説明会を開催…計10回開催	A	◇利用区分の3区分から4区分への変更にあたっては、利用団体へ複数案を示して意見を聴取するアンケートを実施した上で方向性を決定し、利用者懇談会で説明、確定後には説明会を開催した。利用者懇談会は、部屋の利用可能人数が制限されているため、複数回開催し、事前申込制とした。 ◆コロナ禍において、参加者数や開催時間等に制約はあるが、引き続き、館の運営や事業の企画・運営への市民参加に努める。	A
地域づくり	【届ける社会教育】 公民館の施設にとどまらず、市内全域で社会教育事業を実施することに努める	・他施設を利用した主催事業の実施	・他施設を利用した主催事業の実施 下野谷遺跡から学ぶ講座(柳沢)、農業を知る講座・インクルーシブな社会をめざす講座(谷戸)、高齢者の課題を考える講座(ひばりが丘)、地域講座・環境講座(保谷駅前)	A	◇令和元年度同様、他施設で、その施設に関係する団体・機関等と連携・協力して実施する事業を複数、開催した。密集・密閉・密接を避けるために、屋外の施設を利用した事業が2事業ある。 ◆令和3年度~5年度公民館事業計画の基本方針のひとつに掲げられているため、地域団体や関係機関と連携・協力しながら、他施設を活用し、地域の中で事業を展開していく。	A	◇令和2年度は公民館から出て外の施設や屋外の事業が実施されたが、公民館を起点に市内各地域で「届ける社会教育」が実践されていると感じる。 ◆「届ける」という意味は多様であるので、可能性を探ってほしい。
地域づくり	【公民館だより】 公民館だよりを通して、市民に公民館や地域に関する情報を発信する。	・公民館だよりでの団体紹介 ・公民館だよりでの人物紹介 ・社会教育的な課題や情報の提供	・公民館だよりで市民団体の活動紹介 2件 ・公民館だよりでの地域情報等の取り上げ 10件 ・公民館だよりでの市民執筆の記事掲載 14件 ・特別紙面講座 3回	A	◇①4、5月の臨時休館により事業の中止及び延期が生じ、講座の募集記事を掲載できなくなったため、郷土史を取り上げた特別紙面講座を3号にわたって実施した。②地域活動を行う市民に執筆を依頼し、コロナ禍における活動の紹介を兼ねたエッセイを掲載した。③令和2年度から、2面10回、4面2回の発行となったが、QRコードの掲載で市ホームページと関連づけることにより募集記事量の適正化をはかり、2面発行の号においても、可能な限り市民の協力を得ながら地域情報の掲載に努めた。④4面発行の号では取材に基づく一面特集と連載記事を掲載し、公民館に関する広報だけでなく、市民が多角的に地域を知ることができる紙面づくりに努めた。 ◆限られた紙面を有効に利用し、公民館の広報と地域情報等の提供に努める。	A	◇①コロナ禍の中、また紙面数が減少となった中、市民参加により編集作業が継続され、そのもとで単なる公民館事業案内にとどまらず、地域・地域活動に関わる記事を継続して掲載してきたことは評価できる。 ②QRコードを使って市のホームページとリンクしたことは評価できる。 ◆①ページ数が減少したことで何が変わったのか検証し、今後生かしてほしい。②限られたスペースでも、より温かみを感じられる、子どもにとっても身近な「だより」作りを目指してほしい。

	重点的な取り組み	重点的な取り組みに取り組んだか	<ul style="list-style-type: none"> ■学びを通じた地域づくりに取り組む事業を実施します。 ■多世代が参加し、交流する事業を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを通じた地域づくりに取り組む事業 14件 地域づくり未来大学(柳沢)、地域防災講座・防災講座(柳沢・田無・芝久保・谷戸・ひばりが丘・保谷駅前)、インクルーシブな社会をめざす講座(谷戸)、現代的課題を考える講座(田無・保谷駅前)、環境講座・人権講座・多文化カフェ・多文化共生講座(保谷駅前) ・多世代が参加し、交流する事業 4件 人形劇フェスタin西東京(柳沢)、多世代交流講座(芝久保)、ひばりが丘フェスティバル(ひばりが丘)、あつまれ！みんなのけいおん講座(保谷駅前) 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>◇①まちづくりや防災、環境、多文化共生等の地域課題を取り上げた講座については、市民団体や関係機関と協力・連携し、参加型学習を取り入れて実施した。②地域づくり未来大学では、グループワークや通信の発行、課外活動等、参加者の関係形成に配慮した運営を行い、講座終了後、自主サークルが発足した。</p> <p>◆地域課題を取り上げた事業や地域づくりに取り組む事業は、市民団体や関係機関との協働・連携を進めながら実施していく。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>◇全館において多様なテーマの事業を実施することで、多くの市民に学ぶ機会と交流の場を提供した点が評価できる。特に環境問題、多文化共生の講座では、市民団体の活動や実践を生で聞いて交流でき、新たな発信ができた。</p> <p>◆まちづくりや防災、環境、多文化共生等の地域課題は、若い世代が不安と共に関心を抱くのではないか。この若い世代の参加を促すためにも、現場で活躍する人材の登用など工夫してほしい。</p>
--	----------	-----------------	--	---	---	---

■※1. 学習支援保育事業とは…乳幼児を育てている市民に対して、多様な学習機会を保障し、出会いと学びあいの機会を生み出すような公民館の公費保育制度です。親子の学びと成長を継続的に支え、学びの成果を地域へ発信・還元できるように支援します。

■※2. 市民企画事業とは…市内の自主グループが企画した事業を一定の審査の上、公民館事業として実施するものです。自主グループが日頃の活動で培った知恵やノウハウを生かして市民にさまざまな学習機会を提供し、地域を豊かにすることが目的です。